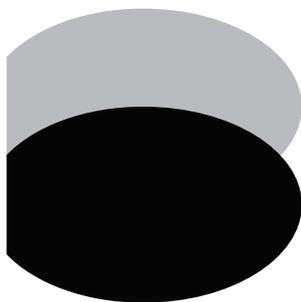


20240331

絵本学会 NEWS No.78

発行：絵本学会
発行日：2024年3月31日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル（株）
毎日学術フォーラム内
電話：03-6267-4550
Mail：maf-ehongakkai@mynavi.jp
HP：http://www.ehongakkai.com



絵本学会

- ・第27回絵本学会大会開催のお知らせ
- ・研究委員会「絵本研究会2023」開催報告
- ・研究委員会からのお知らせ
- ・日本絵本研究賞運営委員会から
- ・企画委員会「絵本フォーラム2023」開催報告
- ・紀要編集委員会からのお知らせ
- ・新入会員の自己紹介
- ・選挙管理委員会より
- ・寄贈図書
- ・絵本学会理事会議事録

■第27回絵本学会大会開催のお知らせ■

大会テーマ：希望としての絵本～明日を生きるために～

■期日

2024年6月8日（土）・6月9日（日）

■会場（オンライン開催）

聖心女子大学 〒150-8938 東京都渋谷区広尾4丁目3-1

*オンライン開催のため、参加者（発表者も含む）の皆様に会場へお集まりいただくことはありません。

■参加費

会員・準会員（院生など）：1,000円／一般：1,500円／学部学生：500円

*1日の参加でも2日の参加でも、費用は同じです。

■大会テーマ

希望としての絵本～明日を生きるために～

地震や津波などの自然災害、人為的にもたらされたともいえる地球規模の異常気象、そして世界各地で生じている地域紛争や国家間の戦争など、世界を巡る状況は混沌を極めていきます。そして今、この地球上に存在する多くの生命が、危機にさらされています。このような状況の中、人は何を希望として生きていくことができるのでしょうか。今回の大会では、「絵本」が、明日を生きるための「希望」となりうるのか、その可能性や存在性について、検討していきたいと思えます。

■プログラム

○第1日目 6月8日（土）

□開会式 13:00～

ご挨拶：藤本朝巳（絵本学会会長）「第27回絵本学会大会を迎えて」

□基調講演 13:10～

『さがしています』をさがしつづける

絵本をレンズに、この揺れる列島のこれからを見つめよう。

アーサー・ビナード（詩人・絵本作家）

□研究発表（A・B） 14:40～16:10

A 座長 藤本朝巳・浅野法子

1. 劉娟（横浜国立大学非常勤講師）

2000年以降の中国における翻訳絵本の諸相——日本語原書を対象に子ども観のアプローチから

2. 尹 惠貞（一橋大学大学院特別研究員）

絵本の翻訳——「重訳（relay translation）」再考

3. 池畑裕介（中国文化大学講師）

ピアリーディングを用いた絵本の会話授業その実践研究

—社会人上級学習者を対象に—

B 座長 鈴木穂波・山本美希

1. 冷韜（筑波大学大学院生）

日本の童画に見られる花の擬人化表現—視覚的デザインの観点から—

2. 張政婷（東京大学東アジア藝文書院特任研究員）

死をテーマとした絵本における動物の登場人物—1990年から2022年までの英国、米国、日本、台湾の描写を探る—

3. 梅野愛子（日本女子大学大学院生）

Ente, Tod und Tulpe のチューリップをめぐる—考察：登場人物の関係性と寄りそう表象

□第5回日本絵本研究賞授与式 16:20～

□絵本学会総会（会員のみ） 16:30～

・議事

○第2日目6月9日(日)

□インタビュー映像(6月9日のみオンデマンド配信)9:00～23:59

『いま、ウクライナから、私たちの声を』

ロマナ・ロマニーシン(ウクライナ在住/絵本作家)

アンドリー・レシヴ(ウクライナ在住/絵本作家)

□研究発表(C・D・E) 10:00～11:30

C 座長 丸尾美保・木下ひさし

1. 永田 桂子(元京都女子大学大学院非常勤講師)

「絵本」研究の視点—絵本観の広がり—を背景に—

2. 末房志野(東京工科大学)

インタラクティブ絵本の提案 ～子供と養育者のコミュニケーションを深めるデザイン～

3. 小松麻美(神戸芸術工科大学)、尹惠貞(一橋大学大学院特別研究員)

韓国の絵本専門図書館のパイオニア — 10周年を迎える順天市立絵本図書館の取り組み—

D 座長 馬見塚昭久・佐々木由美子

1. 小屋美香(育英短期大学)・前徳明子(埼玉東方短期大学)

絵本を通じた保育者の専門性の育ちに関する考察—認定絵本士資格を持つ保育者へのインタビュー調査から—

2. 相沢和恵(元保育者養成校教員)・矢阪亜希子(財団職員)

参加者が一体感を持って絵本を楽しむ「おはなし会」開催の意義 —1冊の絵本の読み手が2人以上の読み合いについて—

3. 村田康常(名古屋柳城女子大学)・黒岩茉由(名古屋柳城短期大学附属柳城幼稚園)

子どもの絵本体験の多様性と収斂点—保育者と絵本を読みあうエピソードの記述から

E 座長 水島尚喜・有福一昭

1. 山本美希(筑波大学)

日本における文字なし絵本の歴史—19-20世紀前半の事例調査—

2. 伊藤敬佑(白百合女子大学非常勤講師)

1970年前後フランスの絵本状況における、フランソワ・リュイ＝ヴィダルの新規性

3. 村田瑞綺(武蔵大学、法政大学非常勤講師)

アンドレ・エレとおもちゃ

□作品発表 13:00～14:20

司会/コメンテーター 辻政博・宮崎詞美

・高坂結実(愛知県公立小学校元教諭)

『でんでんむしのかなしみ』

・WANG HONGYING(京都芸術大学大学院生)

『潮干狩り』

・魏辰宸(京都芸術大学大学院生)

『夢』

・曾子安(京都芸術大学大学院生)

『空を見た時』

□ラウンドテーブル① 14:30～16:00

絵本と戦争～非平和という概念を軸に

コーディネーター:穴澤秀隆(國學院大學栃木短期大学)

コメンテーター:藤本朝巳(絵本学会会長/平和学園学園長)

ゲスト:長野ヒデ子(絵本作家)

□ラウンドテーブル② 14:30～16:00

かがくい絵本と子どもの笑顔～障がい児への眼差し

コーディネーター:鈴木穂波(絵本学会理事/大阪大谷大学)

コメンテーター:水島尚喜(大会実行委員長/聖心女子大学)

ゲスト:佐藤幹夫(ジャーナリスト/かがくいひろし元同僚)

□閉会式 16:15～

総合司会:佐々木由美子(絵本学会理事/東京未来大学)

■お申し込み方法

下記 URL から Peatix にアクセスし、お申し込みください、

* <https://ehongakkai27taikai.peatix.com>



*申し込み締切り:5月31日(金) 22:00まで

*上記からお申し込みとお支払いが可能です。またお申し込みフォームには「総会の委任状」の項目もあります。

*詳細は同封の大会案内チラシをご覧ください。お申し込みの方には、後日、大会プログラムを配信いたします。

*会員で大会不参加の方も、申し込みフォームの総会委任状にご記入の上、送信をお願いいたします。(「委任状のみ登録」の無料チケットをお選びください)

■参加者へのお願い

・視聴に関わる操作や通信環境等のサポートはできません。事前に、ご自身で当日使用する端末等の準備をお願いいたします。

・すべての大会プログラム(基調講演、研究発表、作品発表、ラウンドテーブル、総会)の内容の録画録音は禁止です。画面の撮影や画面収録、スクリーンショットもお控えください。

・掲示資料に関する著作権の問題、参加者の個人情報保護の観点からも皆様が安心して参加できる環境を目指しています。くれぐれも厳守をお願いいたします。

・大会プログラム中はカメラをオフにし、音声はミュート(消音)でご参加ください。

■連絡先

第27回絵本学会聖心女子大学大会実行委員会

メールアドレス: ehongakkai27@u-sacred-heart.ac.jp

研究委員会「絵本研究会 2023」 開催報告

「瀬田貞二さんについて」

2023年12月16日(土)14:00～16:00 オンライン開催

講師：斎藤惇夫さん



絵本学会研究委員会では、2021年度から3名の委員（鈴木穂波研究委員長、赤羽尚美委員、山口恵子委員）が年度に1回、絵本研究を深める機会となることを願い、絵本研究会を企画・運営してきました。3回目となる今年度の絵本研究会も過去2回に引き続きオンライン開催とし、福音館書店編集者を経て作家となり、現在は幼稚園の園長を務めておられる斎藤惇夫さんを講師にお迎えし、児童文学者・瀬田貞二さんについてのご講演をいただきました。

ご講演では瀬田貞二「先生」ではなく、「さん」づけでお呼びになる理由も含め数々のエピソードが語られ、瀬田貞二さんのお人柄や子どもと文学への思いが生き生きと伝わってきました。別冊の講演録にまとめておりますので、どうぞ手に取ってお読みください。なお、ちらしと講演録の表紙は、今回のご講演をイメージして、会員の冷韜 (Leng Tao) さんが作成してくださいました。

今回103名（会員43名、一般60名）のご参加があり、講演会後のアンケートでは、熱い思いのこもった感想が寄せられました。一部をご紹介します。

*瀬田先生が子どもの本の世界になされたお仕事の偉大さを改めて知ることができました。そして、子ども達と質の良い絵本や児童文学をつなげていかなければいけない思いを新

たにしました。よいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

*斎藤先生と瀬田貞二さんの出会いと物語について、情景が目に見えよくなるような素敵なお話を伺いました。また、子どもの本を扱う場合に必ず読むべき本、これからも読み続けていくべき本を紹介いただき、大変参考になりました。次の世代にも伝えていけるように、読み続けて参りたいと思います。ありがとうございます。

*瀬田貞二さんの思いや功績などもさることながら、斎藤先生の瀬田さんに対する思いや、受け取られたたくさんのごこと、それらを皆に広め、次の世代やたくさんのお子さん達へ繋げようとしている思いなど、多くのことを感じることができました。学びが多く、とても有意義な時間を過ごさせていただきましたし、改めてご紹介いただきました本も、深く読み返したいと思いました。

*とても貴重なお話をお聞きすることができ大変勉強になりました。また、幼少期に優れた絵本や児童文学と出会うことの大切さを改めて実感いたしました。図書館職員をしておりますが、微力ながら携われていることに気持ちを新たに今後も努力してまいりたいと思います。本当にありがとうございました。

この他にも、多くの感想が寄せられました。講師の斎藤惇夫さん、ご参加くださった皆様、ありがとうございました。

2021年度から3回の絵本研究会を振り返りますと、2021年度は「『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にける虹』を語る」（講師・赤羽茂乃さん）、2022年度は「日本の絵本を世界に一ベッティーナ・ヒューリマンの働き」（講師・眞壁伍郎さん）、そして今年度は「瀬田貞二さんについて」（講師・斎藤惇夫さん）ご講演をいただきました。毎回、これからの日本の絵本を考える際に立ち返るべき原点を教えられたような気がしております。

2023年度をもって、3名の委員は任期終了となります。至らない点が多々あったと思いますが、講演会アンケート等を通して、皆様にお言葉をいただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

（文責：山口恵子）

研究委員会からのお知らせ

◎ 2024 年度研究助成応募申請要項について

2024 年度研究助成についてお知らせいたします。学会員皆様の応募をお待ちしております。応募申請の手順等は以下の通りです。

①応募資格

応募時に 2024 年度年会費納入済みの絵本学会会員であること。プロジェクト研究の場合、構成員全員が会員であること。

②申請方法

絵本学会ホームページ掲載の「2024 年度研究助成申請書」をダウンロードして入力し、メールタイトルに「研究助成応募申請」と明記の上、絵本学会研究委員会宛にメール添付にて申請してください。

③募集の件数および助成金額

合計 3 件（1 件につき 5 万円の助成）

④応募期間

募集開始：2024 年 6 月 1 日（土）

締め切り：2024 年 6 月 30 日（日）必着

⑤結果の通知

2024 年 7 月末日までに研究委員会より研究（代表）者宛てに採否及び採否理由についてメールで通知します。なお、採択された場合、研究（代表）者の氏名、所属（職名）、研究テーマを公表します。

⑥研究成果報告書の提出について

研究成果の報告書を A4 サイズ 1 枚程度（書式、字数は自由）にまとめ、決算報告書を添付の上、2025 年 3 月中旬までに研究委員会に提出してください。研究成果は、絵本学会大会や『絵本学』での公開を望みます。

【問い合わせ・提出先】

絵本学会研究委員会 ehongakkai.kenkyu@gmail.com

日本絵本研究賞運営委員会から

日本絵本研究賞運営委員長 水島尚喜

2024 年 3 月 4 日開催の研究賞運営委員会において、第 5 回 3 期日本絵本研究賞の選考会が行われ、推薦された論文等 4 件、図書 2 件についての審査があった。結果、年次優秀賞として以下の 4 点が選出された。

年次優秀賞【研究賞】

*沼辺信一「光吉夏弥旧蔵のロシア絵本について」

『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集』26 号、2023 年 3 月、pp.1~56)

「光吉夏弥旧蔵のロシア絵本について」では、1930 年代の戦前期日本におけるロシア絵本移入史を踏まえて、光吉夏弥が蒐集したロシア絵本コレクションの形成をたどるとともに、月刊誌『生活美術』1943 年 9 月号の「絵本特輯」に記された光吉のロシア絵本理解がいかなるものであったかを紹介する。ただし光吉が自身についてあまり語り残していないこともあり、本論究では、推論に頼る部分も多く、考察の説得力に欠ける部分が目立つ。しかし今後進展していく光吉研究やロシア絵本研究の要点を示唆する貴重な論考として評価したい。

<短評：森寛>

*棚橋美代子・浜崎由紀「『観察絵本キンダーブック』（1927 年～1944 年）の落款」

（『絵本・絵雑誌とその周辺』創刊号、2022 年 12 月、pp.2~31）戦前期の『キンダーブック』及び附随した家族雑誌『ツバメノオウチ』の画面、本誌「キンダーブック」附録の「額絵」に記された落款・サインを取り出し、整理し、一覧表にしたものである。非常に地道で労力をかけた作業に基づき、103 名の落款等をカラー図版で紹介している。落款は、絵画制作者のアイデンティティを示す貴重な印である。絵雑誌媒体中の落款を分類整理することで、氏名の明らかになっていない作者の同定作業にも資する貴重な内容となっている。さらに、該当作家の絵本文化、美術文化での位置を見定める手掛かりになろう。

<短評：水島尚喜>

年次優秀賞【特別賞】

*矢野智司・佐々木美砂『絵本の中の動物はなぜ一列に歩いているのか 絵本の空間学』（勁草書房、2023 年 3 月）

非常によく練り上げられた論考である。「本」という構造に特有な「空間表現」のおもしろさを、「積み木型絵本」と「入れ子型絵本」と名付けて 2 分類し、該当する豊富な絵本を例示しながら丁寧に論じている。そのうえで後半では、ポスト構造主義的な視点から、これらのタイプに該当しない絵本作品を紹

介し、絵本というメディアや「空間構成のプロセス」の特質を整理している。絵本を単なる図像学的な意味解釈ではなく、空間図像学とでも呼称すべき地平から絵本構造に言及しようとする点において、独創的な絵本論といえよう。

<短評：鈴木穂波>

*刈谷政則・永岡綾・林綾乃『谷川俊太郎 絵本 百科典』（ブルーシブ株式会社、2023年3月）

本書は展覧会の図録として編集された内容である。ほぼ、半世紀以上絵本作りに携わってきた谷川の絵本観が滲み出て、絵本研究の視点を提供する書ともなっている。編集者達が「絵本」と判断する谷川作品が時系列に172点抽出され、書影や本文の一部、書誌情報、および谷川のインタビュー記事、関わった画家達の証言、編者によるコラム等によって構成されている。一貫した論が展開されたものではないが、今後の谷川研究及び絵本研究の一助になる重要資料として高く評価できる。

<短評：永田桂子>

年次優秀賞の選定後、第5回1期分2期分及び3期分の優秀賞論文、優秀賞図書の中から、選考規則第3条（第一次選考）に則って、選考委員会に送り出す論文、図書を決定した。結果は、以下の通り。（尚、第一次審査で残った論文、図書の総数が、規則の定める選考委員会へ送り出す点数、研究賞6編、特別賞2編を超えていたため、各期に次点となった論文、図書については、選考の対象からは除外した。

今後立ち上げられる第5期選考委員会が、「研究賞」、「特別賞」候補の審査を行う。結果については、第27回絵本学会大会において公表される。

第5期【研究賞】候補

*目黒強「日常感覚を異化する絵本：安野光雅とヨシタケシンスケ」『ユリイカ：詩と批評』53巻7号臨時増刊号（通巻775号）「総特集 安野光雅 1926-2020」2021年7月、pp.361-367

*喜久山悟「儀間比呂志の美術一画法に映る沖縄の近・現代」（齋木喜美子編著『立ち上がる艦砲の喰い残し：沖縄における教育・文化の戦後復興』関西大学出版会、2022年3月、pp.77～104）

*杉浦篤子「北海道の絵本作家1 手島圭三郎 発想の原点としての北方風土」（日本児童文学学会北海道支部（編著）/横田由紀子（監修）/柴村紀代（監修）/谷暎子（監修）『北海道の児童文学・文化史』共同文化社、2022年3月、pp.459~472）

*尾崎るみ「長谷川武次郎のちりめん本出版活動の展開—『欧文日本昔噺』シリーズが20冊に達するまで」（『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集 25』白百合女子大学児童文化研究センター 2022年3月、pp.29～54）

*棚橋美代子、浜崎由紀「『観察絵本キンダーブック』（1927年～1944年）の落款」

（『絵本・絵雑誌とその周辺 創刊号』株式会社ガリバー出版部 2022年12月、pp.2~31）

*沼辺信一「光吉夏弥旧蔵のロシア絵本について」

（『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集』26号、2023年3月、pp.1~56）

第5期【特別賞】候補

*齋木喜美子『沖縄児童文学の水脈』（関西学院大学出版会、2021年3月）

*矢野智司・佐々木美砂『絵本の中の動物はなぜ一列に歩いているのか 絵本の空間学』

（勁草書房、2023年3月）



企画委員会

絵本フォーラム 2023 開催報告

絵本フォーラム 2023 「絵本の製版と印刷」

講師：近島哲男さん プリンティングコーディネーター

協力者：平井彰さん プリンティングディレクター

小野千世さん 絵本作家

近島恵子さん (原稿代読)

日時：2024年2月10日(土) 14～16時

会場：筑波大学東京キャンパス

企画委員会では毎年絵本フォーラムとして、作家や編集者などの絵本の作り手と、読者をつなぐイベントの企画運営を行っています。2023年度は引きつづき3名の委員(山本美希、神谷友、かわこうせい)で運営を担当しました。コロナ禍が一段落したため、今回のフォーラムは久しぶりに対面のみでの開催となりました。

今年度のテーマは「絵本の製版と印刷」とし、絵本を生み出す際に欠かせない印刷技術を取り上げました。商業印刷の現場で絵本製版を手掛けてこられた講師および絵本作家から、とくに至光社の絵本を中心に印刷技術の奥深さをお話いただき、全国から集まった80名の方が受講されました。

まず、プリンティングコーディネーターの近島哲男さんから、ご挨拶いただきました。当初はお一人で講演いただく予定でしたが、体調を崩されたため急遽、近島さんが入念に準備された資料を提示しながら、原稿をご夫人の近島恵子さんに朗読いただき、近島さんと絵本を手掛けてこられたお二方にも登壇いただく運びとなりました。

「視点の原点」という導入部では、『ぼくは川のように話す』(絵：シドニー・スミス)が紹介され、主人公が目覚める視界を映画的なモンタージュの手法で描いていることが解説されました。製版では、わずかに凹凸のある紙の凸部にピントを合わせるか凹部にピントを合わせるかで風合いが変化し、絵本の仕上がりに影響があるそうです。赤坂三好絵『雪わらしのうた』の例では、印刷テストを三度繰り返しても影が赤みがかってしまうなど、原画の魅力を印刷で最大限引き出す試行錯誤のご苦労がうかがえました。

続いて、プリンティングディレクターの平井彰さんから、光と色の話、眼の奥で光を感知する錐体細胞の話など色について解説いただくとともに、シアン・マゼンタ・イエロー・ブラックに4色分解された版を重ねていくことで、ムクの「叫び」が絵画として浮かび上がってくる実演を通して、プロセスインキの仕組みを体感することができました。『あおくときいろちゃん』(レオ・レオーニ著)の英語版は4色のプロセスインキで印刷されていますが、至光社の日本語版には、通常の色と

ブラックに加えて青、緑、黄土、赤の特色インキが使われているそうです。両者を比較してみると、発色の鮮やかさに明らかな違いが見てとれました。さまざまな顔料、ビヒクル(展色剤)、補助剤の実物も紹介され、インキを点描のように配した「アミ点」のコントロールによる製版の世界を垣間見ることができました。

また、『野の草花』(絵：高森登志夫)の色校正にまつわるエピソードも興味深いものでした。この本を手がけた新日本セイハン(大阪)は、至光社の武市八十雄さんが惚れ込んだ製版所です。近島さんは、大変美しい色校正に肉薄しようと力を注ぎましたがその完成度には及ばず、40年以上経った今でも当時の体験を忘れないで、この時に作成した色校正を大切にしているそうです。

最後に、絵本作家で至光社の季刊誌『ひろば』の表紙も描いておられた小野千世さんに登壇いただきました。近島さんの提案で出版された『花と木杢(サボ)』では、退色してしまった原画が印刷で鮮やかに復元されていました。『ふってくる』の紹介では「空からは、月の光がバレリーナになってふってくる」とダンスを披露される楽しい一幕もありました。

ふだん何気なく目にする印刷物には、製版者によるさまざまな調整の跡が残る、というお話はとくに印象的でした。

近島哲男さんは、ご講演4日後の2月14日にご逝去されました。誠に残念でありませんが、最後に製版と印刷について知る貴重な機会をつくっていただいたことに深く感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。今後の絵本フォーラムについてご要望等ありましたら、下記までお知らせください。

絵本学会企画委員会 ehongakkai.kikaku@gmail.com

(文責：かわこうせい)



紀要編集委員会からのお知らせ

『絵本学』第27号投稿募集

『絵本学』第27号(2025年3月刊行予定)の投稿を募集します。投稿に当たっては、下記の投稿規程ならびに絵本学会ホームページに掲載の執筆要項を必ずお読みください。

投稿締切日：2024年9月30日(必着)

原稿送付先・問い合わせ先：ehongaku.kiyo@gmail.com

絵本学会紀要編集委員会

研究紀要『絵本学』投稿規程

1. 投稿資格

絵本学会会員および準会員で、当該年度8月31日までに会員資格を有していること。

2. 投稿の種類

絵本に関する研究論文、研究ノート、論説で未発表のもの。

【研究論文】研究の視点や手法、理論展開および結論に独創性や説得力が高く認められるもの。

【研究ノート】研究の基礎データになる資料調査・実践などの報告、あるいは理論構築の可能性が認められるもの。

【論説】学術的な論で、注目すべき研究・作品・作家・展覧会・活動を取り上げての評論など。

3. 投稿原稿の採否

- 1) 査読に基づき、紀要編集委員会が採否を決定する。必要に応じて紀要編集委員の外に査読を依頼する。
- 2) 紀要編集委員会は執筆者に内容の修正を求める場合がある。
- 3) 採否の結果は当該年12月末までに執筆者に通知する。執筆者は採否の結果について説明を求めることができる。この場合、紀要編集委員会は申し出内容を精査の上、適正範囲内で回答する。

4. 執筆要領

執筆は別に定める「執筆要項」(絵本学会ホームページに掲載)に則ること。

5. 著作権

- 1) 『絵本学』に掲載される論文等の著作権は執筆者に帰属する。執筆者は掲載決定後、絵本学会に、著作権のうち複製権の行使を再許諾権付きで許諾するものとする。
- 2) 論文等に引用される文章、図版、写真等の著作権に関する事項はあらかじめ執筆者の責任において処理すること。

6. 研究倫理

- 1) 研究は十分な倫理的配慮の上に行うこと。
- 2) 個人事例を取り上げる際には、個人情報や秘密を保護することに配慮する。研究対象者・保護者・所属長、研究協力者などから文書による承諾を得、論文等にその旨を記載する。

7. 投稿締切日

当該年9月30日(必着)

8. 刊行

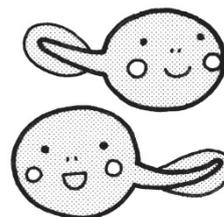
当該年度内

9. 原稿の送付

- 1) 原稿は電子データをメールに添付して送付する。
- 2) 原稿送付先：絵本学会紀要編集委員会(メールアドレスは別に指定)

規程の改廃は理事会の審議を経て決定される。

改正日 2022年3月9日



新入会員の自己紹介

相沢和恵

(元 浦和大学准教授)

現 一般社団法人保育栄養安全協会 東京都保育士等
キャリアアップ研修講師)

はじめまして。相沢和恵と申します。幼稚園教諭、その後保育士として保育の現場に25年以上おり、この経験を基に保育者養成校に勤務、2023年4月から保育士等キャリアアップ研修講師を務めています。

幼い頃から、たくさんの絵本を親に読んでもらって育ちました。小学生になると石井桃子先生が開かれた「かつら文庫」に通い、幼年童話の面白さを知りました。短期大学在学中は、「児童文化」の講義を松岡享子先生から受講し、絵本の奥深さを教えて頂きました。

就職後もさらに絵本について学びたい思いが募り、2019年に絵本専門士の資格を取得して、現在はおはなし会での読み手や、おはなし会の開催方法について広める役も担っています。聞き手の子ども達だけでなく広くどの年齢の方々も、目を輝かせて絵本に見入り聞き入る姿に、いつも感銘を受けます。この「絵本学会」に入れて頂き、更に学びを深めてまいりたいと存じます。

どうぞ皆様、宜しく願い致します。

...

新井明子

(大阪総合保育大学 准教授)

はじめまして、この度絵本学会に入会させて頂きました新井明子と申します。保育養成校で、表現領域指導法の授業を担当しております。

教員としての経験はまだ浅く、以前は保育者として、子どもや保護者を対象にお話し会や絵本を使った子育て支援を実施し、絵本との出会いを大切にしてきました。

私自身も、幼少期に周囲の大人から、たくさんの絵本に出会わせてもらって育ってきました。その体験として、絵本の『絵』や読み聞かせてくれた方の『声』が、年を重ねた今でも心地よい感情と共に身体に残っています。子どもだけではなく、保育を目指す学生や様々な方にも『絵本と出会える機会』を作り、絵本の魅力を体感してほしいと現在も活動しています。

絵本学会では、『絵本の持つ力』を学び、深めていきたいと思っております。現在は、地域の昔話や乳児に出会ってほしい絵本に興味があり、学んでいます。どうぞよろしくお願い致します。

...

宇津木七実

(関西女子短期大学 教授)

昨年、絵本学会に入会させていただきました宇津木と申します。大阪の保育者養成校で、造形、表現に関する授業を担当しています。

乳幼児期の子どもの育成に携わる保育者を目指す学生たちには、専門的な知識や技能を身につける土台となる、様々な豊かな体験をしてほしいと考えています。絵本に関しても、在学中に、多くの絵本に出合って、読み聞かせの経験を積み重ねて、絵本により親しんでもらいたいです。学科全体の取り組みとして、附属幼稚園の園児への「お話し会」や、絵本をテーマにした劇あそび制作の機会等を設けています。私の授業では、絵本をテーマとした造形表現の課題を通して、学生が1冊の絵本とじっくり向き合う機会をつくっています。

また、私自身、絵本をテーマとした幼児の描画表現について興味をもち、研究に取り組んでいます。今後は、絵本学会で学ばせていただいたことを、保育者養成、授業、研究等に活かし、各々深めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

...

王宏穎 (オウ コウエイ)

(京都芸術大学大学院)

初めまして。この度、準会員として入会させていただきました、王 宏穎 (オウ コウエイ) と申します。中国山東省出身で、現在は京都芸術大学大学院に在籍しております。

私は「中国暦における年中行事と民俗文化」を題材とする絵本を研究しております。子供の頃に祖母と田舎で生活していた私にとって絵本は大切なものでした。祝日が近づくと、大人たちが民俗文化に関するいろいろな絵本を読み聞かせてくれました。私は絵本を通して民俗文化の伝統など知らない知識を学びました。

絵本は大人向けの本より文字が少ないが、物語が豊かに含まれており、大量の絵と言葉を使って表現する漫画などは違って読者の想像力を刺激します。そんな絵本の特性を活かしつつ民俗文化をとりあげ大勢の関心をひきつけるには具体的にどうすればよいか?この問題を明らかにするのが自分自身の絵本研究の目的です。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

...

佐々木雅子

(秋田大学教育文化学部 英語教育コース 教授)

会員の皆様、はじめまして、佐々木雅子と申します。専門は英語教育、応用言語学です。

具体的には、「社会文化理論に基づく英語教育」と「英語で

のインタラクションによる指導ができる教員養成」を研究テーマにしています。より自然な英語習得とそれを授業で実践できる教員の養成方法を研究しております。

学会に入会した理由は、文化的表象である絵本の視覚的・聴覚的刺激を生かした英語教育を模索していきたいと思ったからです。私自身、絵本の芸術性と柔らかく深い雰囲気に魅了されております。昨年（2023年6月）から、「Ehon Storytime: Interactive English Picturebook Storytime」と題して、毎月2回、市立図書館で学生たちがインタラクションを取り入れて絵本を子どもたちに読む活動を実施しています。様々な絵本へのアプローチにとっても興味があります。是非たくさん学ばせて下さい。

...

宮崎麻子

(東京未来大学 兼任講師)

この度、絵本学会に入会いたしました宮崎麻子と申します。東京未来大学など教員養成校で「子ども文化」「児童文化」「子どもと言葉」を担当しております。

学生に多彩な絵本を紹介しながら、私自身が癒やされたり励まされたりしていることを常々感じています。

専門は、児童文学と子どもの歌（童謡・遊び歌）。ここ数年は、中川ひろたかのあそびうたについて細く長く考察して参りました。引き続き、中川さんの絵本作品へも視野を広げていけたらと考えています。ショーン・タンや刺繍絵本にも興味があり、絵本学会を通じて多くの刺激と学びが得られましたら幸甚に存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(50音順)

※未掲載の方で、新入会員自己紹介の執筆をご希望の方は、広報委員会までご連絡ください。



選挙管理委員会より

現役員の任期満了にともない、理事選出規則および監事選出規則に従って、オンライン投票により来期（2024年度～2026年度）の役員選挙を実施しました。2024年1月31日（水）で投票を締め切り、選挙管理委員会（委員：赤羽尚美、小松麻美、尹恵貞）にて2024年2月10日に開票作業を行い、以下の結果となりましたことをご報告いたします。

● 2023年度絵本学会役員選挙

有効投票数：303件

無効投票数：7件

開票結果

〈理事〉

- | | |
|------------|---------|
| 1. 佐藤博一 | 37票（当選） |
| 2. 山本美希 | 36票（当選） |
| 3. 生駒幸子 | 33票（当選） |
| 4. 馬見塚昭久 | 33票（当選） |
| 5. 水島尚喜 | 33票（当選） |
| 6. 宮崎詞美 | 32票（当選） |
| 7. 竹内美紀 | 28票（当選） |
| 8. 永井雅子 | 25票 |
| 9. かわ こうせい | 23票 |
| 10. 村田あゆみ | 23票 |

〈監事〉

- | | |
|---------|----------|
| 1. 杉浦敦子 | （無投票 当選） |
| 2. 石井光恵 | （無投票 当選） |

今後の予定

3月下旬に理事選挙の当選者7名による新理事会準備会を開催し、会長、事務局長、各専門委員会委員長、会長の任命による理事3名、以上の候補が選出され、6月8日の第27回絵本学会総会の承認を経て正式に新理事会が発足します。

寄贈図書

中川素子著『世界をひらく 60冊の絵本』（平凡社、2024.2）
寄贈者：中川素子



概要) 従来、こどものための読みものというイメージが強かった絵本は2000年以降になると、そうしたイメージから大きく変化を見せ、世界各地の紛争を受けて平和を願うシンボルとなるものや、人間のあり方を表現する役割を担うものとなっていく。さまざまなメディア性と表現構造を持ち、年齢を問わず、多くの人が読むべきものとなっているのだ。こうした絵本について、絵本の視覚表現や表現構造を専門としてきた著者が、現代を生きる誰もが共有すべき13のテーマに基づいて、60冊の絵本を取り上げ、紹介する。(出版社のホームページより引用)

絵本学会理事会議事録

2023年度 絵本学会 第3回理事会 議事次第

日時：2023年9月23日（日）20：00～ 於：オンライン
出席：藤本朝巳（会長） 丸尾美保（会長代理）
佐々木由美子（事務局長） 鈴木穂波
長野麻子 馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美
山本美希
欠席：甲木善久
記録：鈴木穂波 *次回、長野先生。以後、五十音順で担当。

議事次第

前回2023年度第2回絵本学会理事会議事録および第3・4・5・6回メール審議議事録が承認された。

◆報告事項

1. 各委員会報告

① 紀要編集委員会

長野委員長より、研究紀要『絵本学』第26号の刊行について資料1に基づき説明がなされ、発行に向けて進めていく旨報告された。

② 研究委員会

鈴木委員長より、絵本研究会2023について、12月13日開催に向けて10月1日から参加者募集を開始する旨、報告された。また、2023年度研究助成について、メール審議のとおり1件の助成を採択した旨確認された。

③ 広報委員会

馬見塚委員長より、NEWS77号発行スケジュールについて資料2に基づき報告された。

④ 第26回絵本学会研究大会実行委員会

鈴木実行委員長より、資料3に基づき第26回研究大会開催報告と決算報告がなされた。

理事より、個人のSNSによる大会内容の無断発信について報告があり、今後、絵本学会主催の大会や研究会・フォーラム等における情報発信について周知をはかる旨確認された。

⑤ 機関誌編集委員会

藤本委員長代理より、2023年度号を10月15日刊行予定であること、また、2024年度号の刊行計画を進める旨報告された。

⑥ 企画委員会

山本委員長より、今年度の絵本フォーラムについて、「印刷・製版の視点からみた絵本」をテーマに2月10日（土）筑波大学大塚キャンパスにおいて対面にて開催する予定の旨報告された。

⑦ 日本絵本研究賞運営委員会について

水島委員長より、第5回日本絵本研究賞2022年度の募集について、前号NEWSへの記載漏れが報告され（ホームページには掲載済み）、次号BOOKEND送付の際に文書を同封する旨確認された。

⑧ 事務局より

佐々木事務局長より、学会会員名簿および学会会則について、資料4に基づき報告された。また、次期理事選挙に関して、1名の推薦があったことが報告された。

◆審議事項

1. 第27回絵本学会大会について

藤本会長と水島理事より、第27回絵本学会大会について、資料5に基づき、聖心女子大学を会場校、水島先生を実行委員長とし、2024年6月に「絵本と希望」をテーマにオンライン開催で行うことが提案され、承認された。

2. 名誉会員について

藤本会長より、吉田新一先生と佐々木宏子先生の2名を推挙し、いずれも2024年度からとすること、以下2点を申し送り事項とすることが説明され、承認された。

①ご逝去の際は除籍

②名誉会員に推挙にあたっては絵本研究および絵本学会への功績・貢献度などを総合的に判断することとする。

3. 理事選挙について

佐々木事務局長より、資料6に基づき、理事7名（会長含む）推薦理事3名、計10名を選出する旨確認され、選挙管理委員の候補について承認された。

4. その他

次回、2023年12月下旬もしくは2024年1月上旬を予定

2023年度理事会 第7回メール審議議事録

日時：2023年10月1日（日）発信

回答：藤本朝巳（会長） 丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長） 鈴木穂波 長野麻子
馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希

◆審議事項

1. 新入会員および退会者について

以下の新入会者（敬称略）が承認された。

入会者：正会員 與語ゆき枝 宮崎麻子 熊谷みのり
築瀬順子 以上4名

準会員b ユジュンケツ 張子瀟 ソウシ 以上3名

2023年度理事会 第8回メール審議議事録

日時：2023年11月1日（水）発信

回答：藤本朝巳（会長）丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長） 鈴木穂波 長野麻子
馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希

◆審議事項

1. 新入会員および退会者について

以下の新入会者（敬称略）が承認された。

入会者：準会員b WANG HONGYING（オウコウエイ）
以上1名

退会者：高原典子（2023年度末をもって退会）

◆報告事項

軽井沢絵本の森美術館より、2023年夏展「童話のなかのアンデルセン」（会期6/23～10/9）の終了報告があり、後援のお礼と企画展の記録が共有された。

2023年度理事会 第9回メール審議議事録

日時：2023年12月2日（日）発信

回答：藤本朝巳（会長）丸尾美保（会長代理）

佐々木由美子（事務局長） 鈴木穂波 長野麻子
馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希

◆審議事項

1. 新入会員および退会者について

以下の新入会者（敬称略）が承認された。

入会者：正会員 熊埜御堂千恵 Shi En (Alice) Miao
準会員b 森永 純子
準会員a 楼 星芮 以上4名

2. 後援依頼について

以下の主催団体より後援名義使用の申請があり、絵本学会

として後援することが承認された。

太田市美術館・図書館

名称：「あふれる、うごめく、のめりこむ。ー絵本原画とアートの空間ー」

会期：2024年2月23日(金祝)～5月26日(日)

諸星精光

名称：超大型紙芝居のイベント
「もろはしせいこう おんがく紙芝居」

会期：4月27、28日

ちひろ美術館

名称：「いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ
あれ これ いのち」

会期：・ちひろ美術館・東京 3/1～6/16
・安曇野ちひろ美術館 9/7～12/1

名称：「いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ
あ・そ・ぼ」

会期：・安曇野ちひろ美術館 3/1～6/2
・ちひろ美術館・東京 6/22～10/6

◆報告事項

第27回絵本学会大会(2024)の日程が以下の通りとなったことが報告された。

2024年6月8(土)、9日(日)

2023年度理事会 第10回メール審議議事録

日時：2024年1月4日(木)発信

回答：藤本朝巳(会長) 丸尾美保(会長代理)

佐々木由美子(事務局長) 鈴木穂波 長野麻子
馬見塚昭久 水島尚喜 宮崎詞美 山本美希

◆審議事項

1. 新入会員および退会者について

以下の新入会者(敬称略)が承認された。

入会者：正会員 木子香 猪狩英美 新井明子
佐々木雅子 馬場典子 相沢和恵
佐竹美香 山口雅史
準会員 b 森永純子 以上9名

2. 後援依頼について

以下の主催団体より後援名義使用の申請があり、絵本学会として後援することが承認された。

やなせたかし記念 アンパンマンミュージアム振興財団

展示タイトル：日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家
かがくいひろしの世界展」

開催場所：香美市立やなせたかし記念館 詩とメルヘン
絵本館&別館

会期：2024年4月20日(土)～6月16日(日)

軽井沢絵本の森美術館

展示タイトル：2024年春展「マザーグースを楽しむ」

開催場所：軽井沢絵本の森美術館

会期：2024年3月9日(土)～2024年6月9日(日)

編集後記

日本では、株価の高値更新、賃金のベースアップ等、景気のいい話も聞こえてきますが、世界は依然として厳しい世相が続いております。時代の激流に呑まれないよう気を付けながら、本当に大切なことを求めていきたいと思えます。

さて、現広報委員による NEWS は今回が最後となります。3年間、たくさんの方々に助けていただきながら発行を続けることができました。心より御礼申し上げます。

(馬見塚昭久)

新しい生活様式が日常となり、また変化し、当たり前と
思っていたことについて改めて見つめ直すようになりました。

この、紙の絵本学会 NEWS が会員の皆様のコミュニケーションの一助となっていましたら幸いです。

3年間、ありがとうございました。

(宮崎詞美)

光陰矢の如しとはよく言ったもので、本当にあっという間の3年間でした。原稿をお寄せくださった先生方、印刷に携わってくださったスタッフの方々、そして、何より会員の皆様からの絵本に対する厚い信頼と深い愛情に支えられて無事発行することができました。心より御礼申し上げます。本号がお手元に届くのは、桜の花の便りも南から北へ、低きから高きへ咲き上る頃でしょうか。新年度を迎え、世界中にたくさんの花が息吹く年になりますよう祈っております。

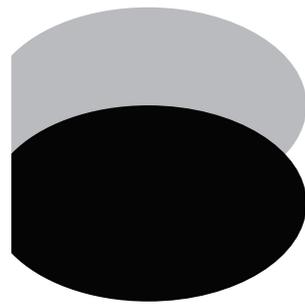
(松本由美)

「余寒」という言葉を、今年の立春以降に知りました(常識がないのですが…)。とても素敵な響き、と思いました。広報委員は正直大変?かな、と最初は思いましたが、いろんな方の助けを得て無事終えようとしています。大変と思いながらうれしい予感もしていたことを、思い出しました。ありがとうございました。

(尹恵貞)

MEMO

MEMO



絵本学会